

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者、職員双方の視点からの理念を作成し、ホールや各ユニットに掲示することで、理念を共有し実践に繋がるように努めている。	事業所は「職員の視点からの理念」と「利用者の視点からの理念」という2つの理念を掲げ、日々のサービスに反映させている。職員視点の理念は「1. 個を尊重し、あるがままを受け入れます。2. お客様としっかり向き合い、その方のペースに合わせて対応します。3. 一人で悩まず、皆で考え、統一したケアを提供します。」である。利用者視点の理念は「1. 自分をわかってくれる職員がいるグループホーム。2. 好きなものを食べて、したいことが出来て、明るく楽しく生活できるグループホーム。3. 自分らしさを尊重してくれるグループホーム。」となっている。職員は2つの理念を理解し日々のサービスに繋げている。理念は事業所内にも掲示され、来訪者にもわかりやすい工夫がなされており、利用者・ご家族・職員に共有認識の周知が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお楽しみ会に参加し、自施設での行事にお招きすることで交流を深めている。また利用者のご希望で定期的にスーパーや衣料品店等に買い物に出掛けている。	区長や民生委員より協力をいただき、地域のお楽しみ会に毎月参加したり、事業所の敬老会に地域の方を招待するなど交流を深めている。冬期間は隣接施設で開催する「喫茶コーナー」に地域の方々と利用者の双方が参加して交流を深めている。買い物に出かけた際は、地域の人たちと気軽に挨拶を交わしたり会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を隣接の特養と連携しながら実施、認知症の理解や対応方法について一緒に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、会議では活動報告や事故報告、施設間評価報告を行い意見を頂きサービス向上に活かしている。	会議では事業所の活動報告が行われ積極的な意見交換が協議されている。冬期間の地域の方々との交流は、会議の提案に基づいて実施されている。外部評価結果も会議で報告し、課題の検討を行ないサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るために貴重な機会である。現在、地域からのメンバーが少ない現状があるので、幅広い分野の方々から参加していただき、幅広く連携していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時包括支援センター担当者とも連絡を取りながら、相談したり助言を頂いている。運営推進会議にも参加して頂き自事業所の状況報告行っている。	包括支援センター担当者・市介護保険課担当者とは随時報告や相談を行い協力関係を築いている。包括支援センター担当者は運営推進会議にも参加している。市が主催するサービス連絡協議会に参加し、情報を活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が対象となる行為について、法人内委員会主催の勉強会や日頃のミーティングの話し合いを通して理解を深めている。各ユニット入口の開錠時チャイムは職員同士の注意喚起の為に設置している。	法人内委員会による勉強会や施設内研修で共通認識を図っている。職員はグレーゾーンについて自分の業務の振り返りを行い、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内委員会主催の勉強会に参加し理解を深めている。職員間にて不適切なケアについては随時、ミーティングで議題にあげ話し合い評価することで防止に努めている。	委員会で不適切ケアの実態調査を行い、結果をもとに、利用者への適切な言葉かけについて理解を深めている。声の大きさ、なかなか伝わらない時の対応等、具体的な場面に即して検討し、よりよい実践を目指している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて学んでいるが一部の職員のみである。相談時成年後見人制度が必要と思われる方には説明等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時にはご本人やご家族様の意向を聞いたり十分な説明、理解、納得を図り合意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回アンケートを実施し、結果と改善策についてはご家族に郵送し、又、来設された方や皆様に見て頂けるようホーム内に掲示している。他、頂いた意見についても来設の方皆様が見やすい所に掲示している。	家族にアンケートを実施し、意見や要望を運営に反映させている。アンケート結果や改善策は事業所内に掲示し、家族に郵送している。日常の会話や表情等で利用者の声・思いを把握し、ケアに反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面接を実施したり、部署会議で話し合う等、機会を設けている。	部署会議には出来るだけ大勢の職員が参加できるように配慮し、意見や提案を運営に反映させている。以前提案された「休憩時間」について試行中である。隔月に目標進捗面接を実施し、気づきや要望等を業務に反映させ職員のモチベーションの維持向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートによる評価の他、必要に応じて面接を行い、職場環境の把握と改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量に見合った研修に参加の他、新人育成100日プログラム、職務評価表の活用にて力量の把握を行っている。資格取得についても法人主催の研修参加等支援フォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修に参加し、他法人のグループホーム見学等学ぶ機会を持ったり、法人内グループホーム連絡会間で交流をし意見交換を行っている。又、連絡会間主催の認知症の勉強会を予定している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接でご本人の不安、要望等を聞き一緒に考えることで、安心してサービスが受けられる様、関係づくりに努めている。又、入居後も不安等無いか随時間聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や相談に来られた際に、ご家族の不安、困りごと等を傾聴し、一緒に考えることで安心してサービスを受けられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ケアマネやご家族様とも連携をとり、ご本人にもサービス導入前にお話を聞くように努めている。又ご本人やご家族にとって一番いい方法を一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に出来ることをして頂くことで、役割や張り合いを持って頂けるよう関わり、常に感謝とねぎらいの言葉も伝えている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に日頃の様子を伝えたり、随時要望を聞きながら、ご本人にとっての良い支援について相談したり、一緒に考えている。	定期的な「通信」や電話で本人の様子を細かく伝えたり要望を伺ったりしている。家族の状況も伺いながら、本人にとっての「より良い支援」を一緒に考えている。面会の際は、家族の気持ちも楽になるような対応を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時ゆっくり話が出来るよう支援したり、昔から行きつけだった美容室を利用してもらっている。 面会の際はゆっくりお話しできるよう場所の提供を支援している。	面会に訪れる方が、また来て下さるようにと「ゆっくり話が出来る」場所を提供している。行きつけの美容室の利用や、馴染みの店での買い物等、要望があれば沿うようにしている。地域のお楽しみ会で顔見知りの関係が出来た利用者もおられるなど、関係継続の支援が丁寧に展開されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で協力しながら作業や活動をして頂いている。日々の生活の中でお客様同士支え合えるような関係性の支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も他のサービス利用出来るよう相談に乗ったりその後の様子を聞く等している。必要時対応方法等の連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、日常の会話等からもご本人の希望、意向を汲み取るよう努めている。センター方式シートの再活用や・会話が困難な方も目を見て話したり、ご家族からお聞きしたりとご本人の思いを汲み取るよう努めている。	事前面接の時に、一人ひとりの思いや暮らし方の意向について、丁寧に聴き取りを行っている。センター方式シートを活用し、思いをくみ取るよう努めるとともに、言葉や表情から思いを知ることができるよう、日々の関わりを大事にしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントツールの活用や、入居前や面会時の聞き取りや日頃の関わりの中からも情報収集している。	家族の協力を得ながら、暮らし方や地域との関わりなどの情報を収集している。居宅のケアマネジャーを通して、これまでのサービス利用状況を把握するなど、できるだけ馴染みの暮らし方が継続できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の関わりやミーティング、申し送り、記録からも情報収集を行い、把握と共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング実施の他、必要時に応じてご家族、ご本人参加のカンファレンスを行い、介護計画書の見直しを行っている。他随時、ご家族様からの要望を頂いたり、医療との連携を図りながら現状にあった介護計画書を作成している。	年度当初に、ケアプランサイクルに沿ってカンファレンスの予定表を作成し、家族に送付している。時期が近づいたら、さらに参加の確認をし、本人や家族が参加しやすい体制を整えている。定期的な見直しの他、必要に応じて随時開催され、本人や家族の意向が反映された介護計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残す他、ミーティング、モニタリング時に気づきを職員間で話し合い、情報共有し、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態に合わせ必要時に応じて他部署や他職種に相談、協力、連携をお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りや琴、詩吟の会の方にグループホームに来て頂き披露して頂いたり利用者楽しんで頂いている。又地域のお楽しみ会に利用者をお連れすることで顔なじみの関係づくりに努め、地域の婦人会の方に行事のお手伝いに来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を確認しながら、出来る限りかかりつけ医に受診して頂いている。又かかりつけ医以外の受診が必要と思われる時は、ご家族と相談しながら受診している。ご本人の様子は書面にて医師に確実に伝えし、医師より受診時の所見も頂いている。	本人、家族の意向を確認し、できる限りかかりつけ医への受診を支援している。状況に応じて、かかりつけ医以外の受診が必要な時は、家族や看護師と相談しながら、適切に行われている。本人の状況については、「受診連絡票」を利用し、確実に伝えるようにしている。受診後は医師からも所見を記入してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護によるバイタルチェックや状態確認他気になる点は連絡ノートにて相談、アドバイス頂き受診に繋げている。急を要する時は、他部署の看護師とも連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から気になることは随時相談している。又、入院した際はホームでの様子経過の情報提供をしたり、入院中もその後の経過を聞くなど情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ、ご家族の了承を得て、重度化や終末期がきてもご家族様不安になられないよう、他施設、医療機関等と連携取っている。事業所として出来ること、出来ないこと等、今後について共に考えている。	現在「看取り」は行っていないが、入居時に重度化や終末期の対応について、説明が行われている。状況に応じ、訪問看護やかかりつけ医と連携しながら対応している。身体状況の変化等については、家族ときめ細かく連絡を取り、その都度検討している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法の講習会に年2回参加し、定期的に訓練を受けている。又個別にフローチャートを作成し、モニタリング時に随時見直しを行うように努め、きちんと対応できるように努めている。	全ての職員が、年2回救命救急法の講習会を受け、緊急時に対応できるようにしている。また、市内の事業所や行政関係者等が実施する徘徊SOS訓練にも参加している。事故を未然に防ぐよう、利用者個別のフローチャートを作り、活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し、地域の方にも協力して頂いている。実施後に意見を頂き、マニュアルについて委員会にて評価見直しを行い、有事の際に活かせるよう改善に繋げている。	マニュアルに基づき、年2回防災訓練を行っている。訓練は、昼間と夜間を想定し、地域の方にも参加を呼び掛けている。実施後は、委員会で評価を行い、より利用者の安全に繋がるよう心掛けている。	今後は事業所の取り組みについて、回覧板やチラシの配布など、年間計画の周知に努め、より多くの地域住民から関心を持ってもらえるよう、事業所から積極的に発信していくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、プライバシー配慮している。又、不適切とならないように一人ひとりに合った対応、言葉かけをしている。	法人内で、人権尊重や接遇についての研修会が実施され、プライバシーの保護や不適切な言葉・対応について具体的に学ぶ機会が設けられている。また、法人独自の職員意識調査を実施し、自らのケアを振り返り、質の向上に繋げる取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇活動などの活動内容の決定をして頂いている。ご本人の希望や思いを言いやすい環境づくりや関係づくりを心掛けている。又、自己決定の困難な方には助言等をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度自立されている方にはその方のペースで過ごして頂き、意思疎通の困難な方についてはご本人のペースを考えながら可能な限りご本人に合わせた活動の提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた洋服を買いに外出支援をしている。入浴時はご本人と衣類を選んで頂いている。ご家族にもその方の好みの衣類をお持ち頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの身体状況や好み等を把握しており、食形態の工夫や代替え食も用意したり、必要時利用者に好みの味付けをしてもらったりと楽しく食事が出るよう工夫している。又、下ごしらえから片づけまでその方の出来るお手伝いをして頂いている。	利用者一人ひとりの身体状況や好み、食習慣を把握し、きめ細かく対応している。行事食やおやつなどは、利用者から希望を聞き取り、一緒に作るなど、楽しみの一つとなっている。利用者は、それぞれ役割を持っており、準備や片づけなど自然に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事のチェックを記録に残している。また、ご本人の好きなものや飲み物を提供している。 摂取量少ない方に関しては記録に残し、申し送り情報共有行なったり、摂取していただけるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔内の状態に合わせてながら、又その方の力に応じた援助方法や声かけ、確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しトイレの声掛けや、腹圧をかけていただくよう声掛けし自立にむけた支援を行なっている。	排泄チェック表を活用し、できるだけオムツに頼らない介護を心がけている。失敗が多い方も本人の自尊心に配慮して、言葉がけを工夫するなど、職員間で話し合い、対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況の確認をしている。水分摂取や食事内容の工夫の他、運動の為の散歩のサービス内容や、食後のトイレ誘導で排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り自分で入浴時間を決めてもらっている。ご本人の体調や希望などに合わせて入浴して頂いている。個別にご本人の希望のシャンプー等使用し入浴時の楽しみの提供を行っている。	週2回の入浴が基本であるが、希望により2回以上の入浴も可能である。利用者の意向に沿って柔軟に対応している。また、入浴日には、朝に職員が声をかけ、入浴時間を自分で決めてもらっている。希望者には、同性介護を実施したり、好みのシャンプーやトリートメントを使用するなど、個別の対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を短めにしたり、一人一人に合わせてご本人の習慣や希望に応じて対応している。居室で一人の睡眠が不安な方には、職員が傍に付き添いを行ったり、その方の睡眠のペースに合わせて眠れる時間帯まで職員と食堂で過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬について処方表にて理解している。症状の変化がある際には、随時訪問看護や主治医に相談しながら服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のアセスメントツールで得た生活歴から慣れ親しんだ活動の支援や、季節ごとの企画行事で気分転換出来るよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のご希望にそった外出支援(買い物、外食)や季節に応じホーム全体での外出企画を計画、実施している。又、ご家族の協力を得、自宅への外出しや友人、知人との関わりが継続出来るよう支援している。	全体としての外出は、四季折々行っているが、他に利用者の希望に沿って、個別の外出支援を行っている。地域への買い物や食事、自宅の仏壇参りなど家族の協力も得ながら実施している。今年度、ボランティアの活動を通して、地域の婦人会等と繋がりができたので、その力をさらに地域への外出支援に活かしていきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を管理して頂く為、ノートに記入しご本人と確認を行いながら所持して頂き、希望時に買い物や外食等でお金を使う機会を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様希望される時に電話をお繋ぎしたり、ホームと交流のある地域の小学生と年賀状のやり取りを支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や居室、ホームの内玄関ホールにてソファの設置等や図書コーナーの設置でゆったり過ごして頂く空間づくりの工夫を行っている。気の合った方向士は居室や食堂で過ごされている。	開設当初から、季節感を大事にしている。利用者とともに制作した暖簾やタペストリー、地元の中学生在が作った木の壁掛けなどがさりげなく飾られており、温かさが感じられる空間となっている。内玄関ホールや図書コーナーなどにソファが置いてあり、利用者が寛げるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行事なども、気の合ったお客様同士が座れるよう配慮している。居間や居室、ホームの内玄関ホールにてソファの設置等や図書コーナーの設置でゆったり過ごして頂く空間づくりの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に茶碗、寝具など昔から使われているものを持ってきて頂いている。家具の配置、壁の装飾等はご家族と相談しながらご本人が居心地良く過ごせるよう工夫を行っている。	入居の際、本人・家族と相談しながら馴染みの家具や写真等を持ってきてもらっている。一人ひとりが落ち着いて過ごせるよう、配慮されており、それぞれ個性的な居室となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示やカレンダーの配置等をしている。ご本人の状態や力に合わせて安全に移動できるよう、居室や廊下の導線の確保や環境の見直しを随時行っている。		